事例研究～中国ビジネス法務

北京市大地律師事務所 / 日本部
パートナー弁護士　法学博士　熊 琳

第２９２回　中国国務院による２０２６年度立法計画の公布

このほど中国国務院（中央人民政府）より、２０２６年度の立法計画が公布された。国務院の立法計画は、中国全国人民代表大会とその常務委員会（以下､「全人代常務委員会」という。）における立法業務に重要な影響を与えるだけでなく、行政管理に関わる法規変更は企業経営にも大きく影響することがあるため、日系企業としても注目に値する。そこで今回は、２０２６年度立法計画のポイントを解説する。

◇大きな進展を見た２０２５年度国務院法律（修正案）

国務院による２０２５年立法計画の中で「全人代常務委員会に審議付託予定」の項目に列挙された法案を見ると、複数の法律が全人代常務委員会に提出されており、すでに審議を経て可決されたものもある。例えば､『対外貿易法（修正案）』は、２０２５年１２月２７日に全人代常務委員会で可決され、２０２６年３月1日より施行されている。また『食品安全法（修正案）』は、２０２５年９月１２日に全人代常務委員会で可決され、２０２５年１２月１日から施行された。加えて、２０２６年４月２７日には全人代常務委員会による『医療保障法（草案）』の第2回審議、２０２５年１２月２２日には『商標法（修正案）』の第1回審議が行われ、いずれも事実上大きな進展を見た。

◇２０２６年度国務院立法計画の要点

例年に引き続き、本年度の国務院立法計画も大きく3つの部分に分けられ、その合計数は２０２５年の立法計画とほぼ同程度となっている。

１、全人代常務委員会に審議付託を予定しているものは合計１４法案で、そのうち日系企業の注目すべきものとしては､『金融法（草案）』､『入札・応札法（修正案）』､『税収徴収管理法（修正案）』､『出入国管理法（修正案）』､『関税法（修正案）』が挙げられる。
また、全人代常務委員会への審議付託を準備中の２８法案も明記されており、そのうち､『消費税法（草案）』､『商業銀行法（修正案）』､『保険法（修正案）』､『業界協会商会法（草案）』､『交通運輸法（草案）』､『食品安全法（修正案）』､『製品品質法（修正案）』､『養老サービス法（草案）』､『不動産登記法（草案）』､『サイバー犯罪防止法（草案）』､『国際民事商事司法協力法（草案）』は注目に値する。

２、制定・改正予定の行政法規は合計２４本で、その中で日系企業が留意すべきものとしては､『薬品管理法実施条例』（改正)､『対外投資に関する国務院による規定』､『産業チェーン・サプライチェーンの安全に関する国務院による規定』､『中華人民共和国反外国不当域外管轄条例』､『行政復議法実施条例』（改正)､『輸出入貨物原産地条例』（改正)､『インターネット情報サービス管理弁法』（改正)､『生産安全事故潜在リスク調査ガバナンス条例』などがある。
また、制定・改正の準備中である行政法規が４９本も明記されており、うち注目すべきものとしては､『プリペイド消費監督管理条例』､『ネットワーク取引プラットフォーム監督管理条例』､『仲裁機関登記管理条例』､『行政裁量権基準制定弁法』､『空域管理条例』､『社会保険基金監督条例』､『サイバーセキュリティ等級保護条例』､『化学物質環境リスク管理条例』､『端末機器衛星直接接続サービス管理

条例』、『外国為替管理条例』、『企業国有資産監督管理暫定条例』、『工業製品生産許可証管理条例』、『政府情報公開条例』、『規則制定手続条例』、『著作権法実施条例』、『不動産管理条例』、『国境衛生検疫法実施細則』、『技術輸出入管理条例』、『国際海運条例』が挙げられる。

３、完了予定であるその他立法項目については、政府職能転換の加速、国家安全の維持、渉外法治の整備に緊急を要する立法項目などに注目できるが、これらは原則的な描写にとどまっており、具体的な実施方法については今後の動向を見守る必要がある。

◇日系企業へのアドバイス

２０２６年度の国務院立法計画には、経済、投資、貿易摩擦、知的財産権などの分野に関わる内容がプラスされていることから、これらが中国政府の重点関心事項であることが読み取れる。近い将来、関連する立法手続きが文字通り進展することが見込まれ、中国における日系企業の生産・経営活動にも影響が及ぶ可能性がある。そのため、継続的に立法計画を注視すると同時に、大きく影響を受ける可能性がある法令について遅滞なく評価を進め、早めの対策を立てることが必要である。

華天科技、南京ＩＣ実装事業に３０億元投資＝江蘇省

中国ニュースサイトの証券時報網が２５日までに伝えたところによると、半導体後工程で国内大手の天水華天科技（甘粛省天水市）は江蘇省南京市に工場を増設し、メモリーチップなどのパッケージング業務を増強する方針だ。第2期プロジェクトとして約３０億元（約７００億円）の追加投資を行う予定。

南京の傘下工場に総床面積8万３３００平方メートルの工場棟などを建設し、関連設備２７７２台を導入する。近く着工し、２０２８年5月に完工予定。

華天科技は南京で2期にわたり実装検査工場の建設を進めている。第1期工場は既に稼働しており、現在は第2期工場を建設している。

同社は南京工場を華東地区における主力生産拠点と位置付けており、通信機器など向けＩＣパッケージング業務を中心に手掛けるが、今回の追加投資を通じ、人工知能（ＡＩ）など向け製品を増強する。事業を担当する現地子会社の華天科技（南京）の２５年の業績は売上高が３７億８７００万元、純利益は1億２１００万元と好調だった。（上海時事）

保齢宝の希少糖工場稼働＝乳業大手に納入―山東省

中国ニュースサイトの中国証券網によると、深セン証券取引所に上場する甘味剤メーカーの保齢宝生物（山東省徳州市）はこのほど、地元に建設した最新工場を稼働させ、希少糖のアルロース（Ｄ―プシコース）の本格生産に着手した。

徳州郊外の工業団地「禹城高新区」に総床面積1万２０００平方メートルの工場棟などを建設した。工場内に自動生産ラインなどを導入し、生産効率化を図った。新工場のアルロースの年産規模は2万トン。

保齢宝はデンプン糖や食物繊維が主力。今回の新工場稼働により、アルロースの年産規模は国内有数の3万トンに増強される。中国乳製品大手の蒙牛乳業や伊利実業などと納入契約を結んでいる。（上海時事）

山東省、渤海横断無人機物流航路開通＝大連―青島２時間

中国メディアの大衆新聞が２２日伝えたところによる、中国渤海上空を横断する国内初の大型無人機による商業物流航路が開通した。大型固定翼無人機「鴻雁（ＨＹ１００）」が山東省青島莱西空港と遼寧省大連を約2時間で結ぶ。これまで約１３００キロの陸路で１０時間以上かかっていた輸送時間が大幅に短縮。半導体や自動車部品、医薬品、生鮮海産物など緊急輸送が求められる物流需要の取り込みを図る。